

令和元年度 学校運営連絡協議会 実施報告

1 組織

(1) 都立清瀬特別支援学校 学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成

副校長、主幹教諭＝事務局長、高等部主幹 計3名

(3) 内部委員の構成

副校長2名、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）、主幹教諭（小学部担当）、主幹教諭（中学部担当）、主幹教諭（高等部担当）、主幹教諭（総務担当）、主幹教諭（生活指導担当）、主任教諭（進路担当） 計10名

(4) 協議委員の構成（敬称略）

中西 郁（十文字学園女子大学 教授）評価委員長兼務

内田 賢（東京学芸大学附属特別支援学校 校長）

岩澤寿美子（清瀬市子どもの発達支援・交流センターとことこ 園長）評価委員兼務

高岸 聡子（東京都東村山福祉園 園長）

大谷 憲司（清瀬市立清瀬第三小学校長）

小池雄志郎（清瀬市立清瀬中学校長）

新井 勘資（清瀬市役所 健康福祉部 障害福祉課 課長）

飯島 一憲（社会福祉法人 恩賜財団東京都同胞援護会さいわい福祉センター 所長）

稲森 直孝（東村山市社会福祉法人 障害者地域自立生活支援センター るーと センター長）

西村 俊輔（パーソルサンクス株式会社 事業本部長）

平山 志津子（本校PTA会長）評価委員兼務

市川 洋介 NPO 法人さざんか 社会福祉士 計12名

2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日、出席者、内容、その他

第1回 令和元年6月14日（金）内部委員10名、協議委員10名

授業公開、協議委員委嘱、協議委員・評価委員紹介

学校経営計画、本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和元年9月26日（水）内部委員10名、協議委員10名

学校経営計画中間報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

第3回 令和2年1月15日（水）内部委員11名、協議委員11名

学校評価アンケート集計・分析結果報告、評価委員会からの助言・提言

次年度に向けた課題の確認

(2) 評価委員会の開催日、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和元年6月14日（金）評価委員3名、事務局5名

学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和元年9月26日（水）評価委員3名、事務局5名

学校評価アンケート内容の検討

第3回 令和2年1月15日（水）評価委員3名、事務局5名

学校評価アンケートの結果・分析報告と学校への助言・提言内容の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) アンケート調査の対象・規模・回収率（実施時期：10月）

○ 保護者アンケート 配布総数 343 回収総数 271 回収率 79%（昨年比－1%増）
（小 123/142 86%）（中 70/77 90%）（高 80/124 64%）

○ 高等部生徒アンケート 1年生 32名 2年生 35名 3年生 30名 計97名

○ 地域向けアンケート ・地域居住者 配付総数 10 回収総数 10 回収率 100%

(2) 主な評価項目

① 保護者アンケートは、前年度の変更し実施した。「学校全般」「学習指導」「進路指導・生活指導」「保健・給食」「教員の働き方改革」「安全対策」の6項目、22問に整理した。今年度学校経営計画に基づく取り組みに対する認知度を確認する質問項目を取り入れ実施した。

② 高等部生徒アンケートは、例年通りの内容で行った。

4 評価結果の概要

(1) 保護者アンケートから

今年度は保護者アンケートの回収率が79%であった。過去数年間の保護者のアンケートに関しては約70%前半ぐらいの数値で推移していることもあり回収率は例年並みである。次年度も回収率が上がるよう質問事項を整理し、回答しやすいアンケートの作成及び実施に取り組んでいく。また、保護者の意見をより受け止めることができるよう、アンケート記入の協力をPTA役員会と協力しながら呼び掛けていく。

① 良い評価を受けた項目（「あてはまる」「ややあてはまる」と評価した人の割合が80%以上である項目及び前年度から10%以上評価があがった項目）

- ・「教員はあいさつ、身だしなみ等の社会人としてのマナーを身につけている」「作成している個別指導計画はわかりやすい」「社会生活を送るうえでのルールやマナーなどの指導を行っている」「発達段階や障害特性に応じた、基本的な生活習慣を身につけるための指導を行っている」「安全でおいしい給食を提供している」「学校からの進路や福祉に関する情報は参考になっている」

② 今後も推進していく項目（学校評価アンケート分析結果から、改善がある必要があるとされた項目）

- ・「教員が外部専門員から指導・助言を受けて授業改善を行っていることを知っている」「地域における学校間交流や、居住地における副籍交流の推進に取り組んでいる」「学校からの進路や福祉に関する情報」では、前年度よりポイントは上がっているが引き続き分かりやすく内容を伝えていくことが必要である。学校の活動が伝わるためにも「わかる・伝わる」を意識した情報発信に今後も取り組んでいく。

(2) 高等部生徒アンケートから

① 良い評価を受けた項目

学校生活について59%の生徒は学校生活が「楽しい」と感じており、20%の生徒が「楽しくない」に回答していた。「楽しい」との回答を増やすため、生徒にとって学校が主体的に活動できる場であるような取り組みを教育活動の中で増やしていく必要がある。

② 今後も推進していく項目

- ・設問「友達にいやなことを言ったり、やったりすることがある」と、「友達からいやなことを言われたり、やられたりすることがある。」というものに「はい」と答えた生徒がそれぞれ8%、18%と昨年度より多くなった。減少を目指すためにも、引き続き人権に基づく指導に力を入れる。
- ・「好きな授業」であがった上位の教科は、「数学(16%)」、「美術(15%)」、「音楽(15%)」であった。実技が主の教科を好む傾向にあることが分かる。「嫌いな授業」で挙げた教科は「家庭科(28%)」、「国語・数学・職業・作業学習(20%)」であり、教科の授業改善が必要である。
- ・休日の過ごし方はゲームが73%、テレビ43%、買い物35%、家で過ごすという生徒が30%であった。また、一人で過ごすと回答した生徒が前年度34%から50%と増えている。余暇活動については、過ごし方を自ら選んで計画できるよう、日々の教育活動を通して家庭との連携を図りながら進める必要がある。

(3) 地域向けアンケート結果から

① 地域居住者（学校近隣小中学校保護者及び地域商店街自治会）

- ・都立清瀬特別支援学校が小・中・高等部の3学部設置の知的障害特別支援学校であることを知っている方が昨年度より増え、認知度は上がっている。しかし、本校にかかわる情報に触れることがない方が多い。高等部の部活動や作業学習が地域に出ていく活動を充実させることで地域の方々に本校のアピール等情報発信をしていく必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した次年度に向けた取り組み

(1) センターの機能の充実

- ・情報発信方法のさらなる工夫・改善をしていく。

- ・地域の特別支援教育の更なる充実を目指した有機的な連携の強化を図る。
- (2) 学校の説明および実施責任
- ・児童・生徒、保護者、地域に対して「シンプル」「伝わる・わかる」「安心」の視点での働き方改革、外部専門員の説明や教育活動の充実。
- (3) 教員のキャリア教育の推進に向けた教職員の意識改革
- ・子供の見本である大人としての社会性（外部折衝力・対人マナー・働く態度）を獲得。
- 6 職員連絡会及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果
- 【実績】 職員連絡会 1回 延べ1人（令和2年1月31日職員連絡会）
- 【成果】 学校運営連絡協議会委員長より、本校への提言をいただいた。今年度の評価と次年度に向けた課題をいただき、教職員の課題が明らかになるとともに、教職員の意識を高めることができた。

以上